

Sustainable Value Creation Tour

◆提案代表自治体：岡山県真庭市（2022 年度選定）

◆連携自治体：岡山県岡山市、岡山県倉敷市、岡山県西粟倉市

◆関連するゴール：



①地域概要と課題及び目標

岡山県全域をエリアとして設定。北は中国山地、南は瀬戸内海と山間部から沿岸部までと豊富な資源を有しており、また、南北は山陰と四国、東西は広島・九州、兵庫・大阪などの西日本の交通の要衝であり、東西南北を結ぶ高速道路網があり、交通の利便性も高い地域である。本県の SDG s 未来都市 4 都市（岡山市、倉敷市、真庭市、西粟倉市）が連携し、各都市の魅力（ESD、流域連携、エネルギー、森林活用など）を活かした事業構築を行う。

岡山県内の特徴的な SDG s の取組の見える化が必要であるが、体感できる有効な仕組みがなく、県内全域へ SDG s の取組が浸透しているとまで行っていない。また、コロナ禍での観光業への影響も喫緊の課題。そのため地域課題解決を体感できる観光ツアー（Sustainable Value Creation Tour）を開発し、ローカル SDG s の取組促進を図る。

②全体計画の概要

広域連携によるスケールメリット（取組の多様性、選択肢増、ターゲット層増、発信・強化など）を活かし、そのすべてを体感できる岡山県版「SDG s 体感ツアー」を実装することで、after コロナ・with コロナにおける観光振興へつなげると共に、都市規模や地域性に応じた地域課題解決の仕組みを体感型で発信（見える化）し、ローカル SDG s の取組促進を図る。



③取組成果

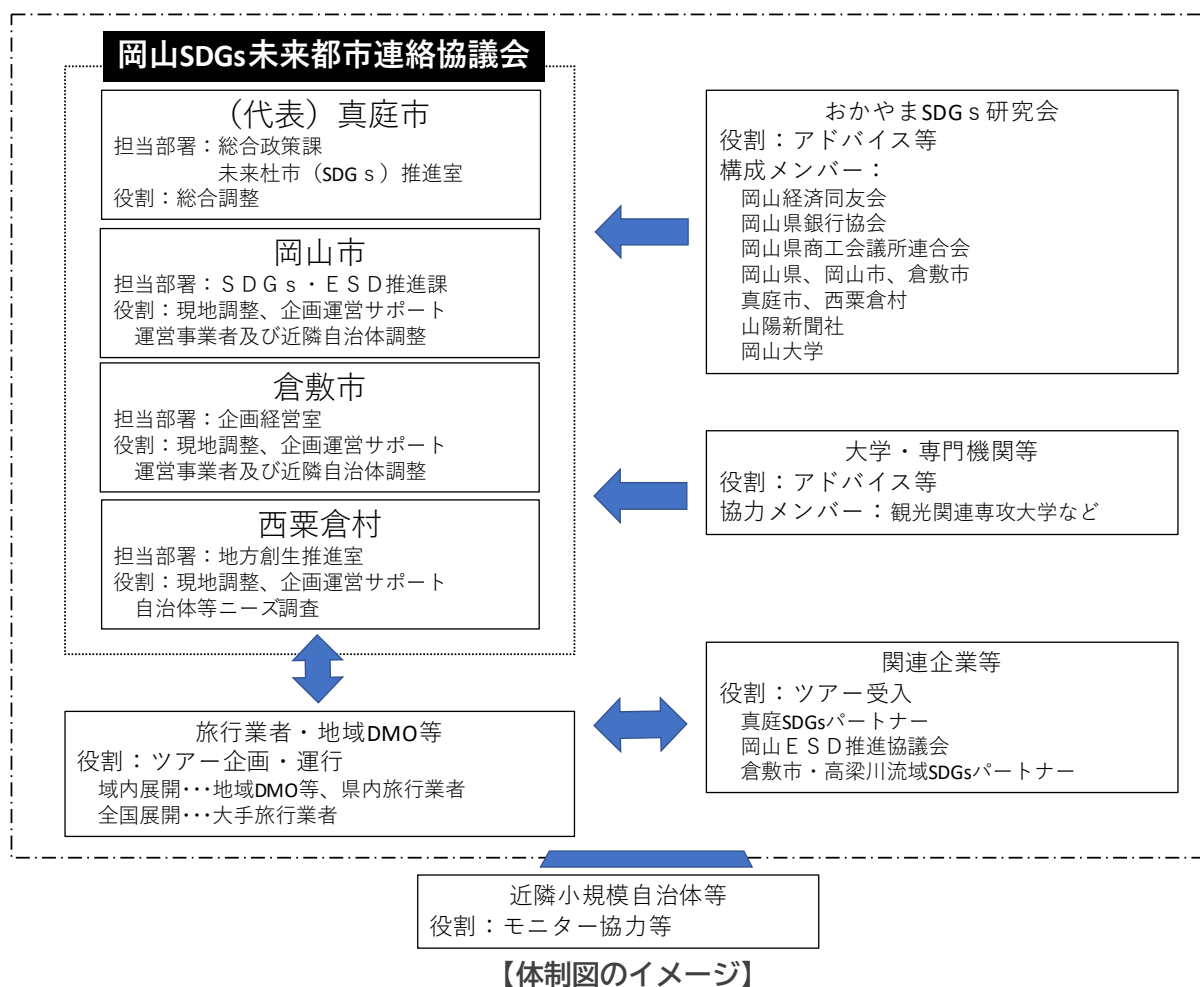
本県の SDG s 未来都市の 4 都市で、「岡山 SDG s 未来都市連絡協議会」を設置し、これを推進母体とし、事業の検討推進を行いました。具体的なツアー開発・運営については、旅行業者及び地域DMOが担い、自走化を見据えた体制とし、4 都市も、構成メンバーである岡山県内の産官学金言の関係団体で構成する「おかやま SDG s 研究会」がオブザーバーとして、客観的な視点で事業推進への助言等行っていただきました。

さらに、サステナブル観光の専門家（大学）も外部アドバイザーとして連携いただき、サステナブル観光人材の育成支援体制の構築



も行いました。

真庭市から各ステークホルダーに呼びかけ、連携の場が構築でき、前向きで協力的に進められました。



④取組推進の工夫

4 都市でが連携し情報交換等を行う「岡山SDGs未来都市連絡協議会」定期的に開催し、スムーズな事業推進を図りました。

⑤今後の展開策

アフターコロナ、ウィズコロナにおける新たな観光振興策とSDGsの取り組みを体感できる仕組みをリンクさせ、「Sustainable ValueCreation Tour」（SDGs見える化（体感）ツアー）の構築を行い、地方創生SDGsの横展開へ繋げるという目標にしています。令和6年度には、新たに岡山県備前市が加わるなど広がりを見せています。

今後、開発したツアーを旅行業者（両備ホールディングス株式会社及び株式会社JTB）がツアー商品として販売を行い、対象地域（岡山県）内外から顧客を確保しながら、その収益において事業の自立化を実現するよう展開して参ります。